

第2回海外研修／ 2nd Overseas Study Tour
(於フィリピン) / in the Philippines
March 2003

【日本「アジア英語」学会ニューズレター第13号より
Excerpt from JAF AE Newsletter , No. 13】

加藤三保子 (豊橋技術科学大学)

本学会主催のアジア研修旅行第2弾として、今年3月にフィリピン研修旅行がおこなわれた。3月17日から22日までの6日間、総勢12名がマニラに滞在し、フィリピンの言語事情・教育事情について視察研修をおこなった。

最初の訪問先はデラサール大学(カトリック系の私立大学)である。ここには3日間通い、元文部大臣や文部次官を含む、フィリピンを代表する著名な講師陣からフィリピンの言語事情(特にフィリピン英語やコード・スイッチング)に関する話を拝聴した。なお、3日目にスピーチいただく予定のバウティスタ氏(金沢で開催した本学会第10回大会で基調講演者)は、あいにく体調を崩されたため、彼女のお弟子さんが原稿を代読された。

授業参観はデラサール大学およびフィリピン・ノーマル大学付属高校、小学校でおこなわれた。特に印象に残っているのは、ノーマル大学付属小学校での英語授業である。教室には1年生児童が40名ほどおり、いわゆる大人数の教室であるにもかかわらず教師は実にうまく子どもたちをコントロールして授業をすすめていた。カラスが主人公の物語を題材に教師の手作り教材をふんだんに使い、語彙や発音、パラグラフごとの内容把握へと話をすすめる。

もちろん、先生も子どもたちも授業中はすべて英語で話す。途中、クラス全体を立たせてゲーム感覚で体を動かす時間も入れ、子どもたちの楽しそうな表情が今も脳裏に焼き付いている。大人数であっても、工夫ひとつでみごとな授業が展開できることを実感した。

今回の研修旅行では、クバオまで足をのばして古書店(学術書などが安価で購入できるらしい)を訪

問する予定もあったが、都合でこちらへ出向けなかったのは残念であった。しかし、マニラ市内の大きな書店へ案内してもらい、広い店内を歩いて言語関係の本を何冊か購入できた。中でも *Dictionary of Philippine English for High School* はなかなかおもしろい。見出し語数1万6千の中になかなか多くのフィリピン英語が含まれている。たとえば、国籍に関係なく肌が白い人であれば *That tourist is American.* と言ったり、時間厳守を *American time*、時間にルーズなら *Filipino time* と表現するところは、アメリカとの深い関わりが感じられる。このほか、外国人ビジネスマン向けに書かれた、フィリピン人と一緒に働くためのハウツー本も購入してみた。フィリピン人自らが著わした本だけに、冷静にフィリピン人氣質が分析されており、フィリピンという異文化社会を理解するうえで大変参考になる。

今回の研修旅行を有意義に、たいへん楽しくかつ安全に終えられたのは、事務局および担当理事として企画段階から骨を折ってくださった河原俊昭氏のおかげである。ありがとうございました。